



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。



「平成27年度 第1回『みえスタディ・チェック』」の結果分析をしましょう



～ 子どもたちが「やればできる」という達成感ある取組を！～

		小学校		中学校	
		4年生	5年生	1年生	2年生
国語	正答率 県平均	52.3%	53.9%	71.3%	60.8%
	無解答率 県平均	10.3%	8.0%	3.6%	8.0%
	たみ結果 課題 から き	目的や必要に応じて文章の要点や細かい点に注意しながら読み、要約すること。	必要な内容を適切に引用して自分の意見を書くこと。	表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを書くこと。	意見が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。
	学習に 当たって	①文章を読む目的に応じて中心となる語や文を捉えるような学習を工夫する。 ②要約する経験を重ねる。	目的に応じて適切に引用できるようにする。	登場人物の行動や会話、情景を基にして場面の移り変わりを捉えることができるようにする。	内容が正確に伝わるように説明できるようにする。
	ワーク シート	第3学年 B書くこと 「ほうこく書を作ろう」	第4学年 B書くこと 「取材をもとに記事を書こう」	第1学年 C読むこと 「叙述をもとに登場人物の心情を読み取ろう①」	第2学年 C読むこと 「説明的な文章を読んで。質問に答えよう。①」



活用してみましょう！

小学校4年生国語 2-（2） 正答率 13.8% 無解答率 17.5%

課題 目的や必要に応じて文章の要点や細かい点に注意しながら読み、要約すること



● 指導のポイント ●

文章を読む目的に応じて中心となる語や文を捉えることが重要です。そのためには文章全体におけるそれぞれの段落の役割を理解して、段落相互の関係をおさえることが大切です。このとき、指示語や接続語、文末表現に注意して、文と文とのつながりを理解したり、繰り返し使われている語や中心となる語に着目して小見出しを付けたりするなどして、内容を整理することが大切です。

報告する文章を書く際には、要約したノートをもとに内容をまとめさせたり、文章の最後には、自分の感想を書かせたりします。また、文章の始めの部分と終わりの部分に対応させるなど、読みやすい文章になるように工夫させましょう。



【平成26・27年度 第3学年 B書くこと「ほうこく書を作ろう」】

みえの学力向上県民運動「成果発表県民大会」を開催！

～ 1月7日（木） 三重県総合文化センター 中ホール ～

幼小中県立学校教職員等教育関係者やPTA、保護者など県民のみなさま、あわせて780名に参加いただき、「成果発表県民大会」を開催しました。

最初に、**鈴木知事**からご挨拶をいただきました。そのなかで、知事は「教育に対する2つの思い」について述べられました。



一つは、子どもたち自身が夢や希望をもったとき、それを諦めてほしくないということです。子どもたちの可能性を広げていくチャンスととらえ、私たち大人が環境を整えていかななくてはなりません。

もう一つは、みえの子どもたちの能力が決して低いことはなく、大人の引き出し方に課題があるということです。

全ては子どもたちのために、県民が一つになって今後も協力していきましょう。

次に山口学校教育担当次長から「みえの子どもたちの学力・学習状況の分析」についての報告があり、その後、**県内小中学校から実践報告**がありました。

伊賀市立柘植小学校

「進路保障をめざすキャリア教育の充実」

小テストなどで満点を取れなかった児童には、放課後、教員が個別指導を行い、満点になるまで繰り返し指導する「補習学習」が定着しています。「基礎基本の徹底」に注力しており、学力向上に結び付いています。

また、5年生と6年生の2回、職場体験に取り組みすることで達成感を味わわせ、自尊感情を高め、さらにチャレンジする気持ちを育んでいます。

四日市市立常磐中学校

「生徒の成長を目指した、落ち着いた学校づくり」

「教師の意識確立（教師＝指導者であること）」、「指導内容の統一（学級指導・授業規律などを組織として決め全教師が取り組むこと）」等により生徒の学校生活が安定し、授業に前向きに取り組むことができました。

数学では習熟度別少人数指導を行っており、生徒の「『わかる』場面」が増え、自尊感情の育成につながってきています。また、帰り学活前の10分間、基礎問題に取り組み、基礎学力の定着を図っています。

次に、内田三重大学学長顧問をコーディネーターとして、貝ノ瀬県教育委員会特別顧問をはじめ、7人のパネリストによる**パネルディスカッション**が行われ、学校・家庭・地域のそれぞれの立場から、具体的な取組について意見が出されました。

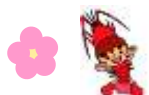
- ・ 子どもたちの学力の状況をきちんと分析したうえで、授業づくりをする必要がある。そのためにも、学力調査結果の分析を有効に活用することが大切である。
- ・ 自己肯定感を高めるには、ただ誉めればよいのではなく、子どもたちが達成感を感じることが大切である。そのためには習熟度別少人数指導も効果的である。
- ・ 地域が子どもの居場所に関心をもち、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの環境づくりに取り組まなければならない。



最後に三重県教育委員会山口教育長より、「今年度の全国学力・学習状況調査において、無解答率が大きく下がったことはとても嬉しい結果の一つです。子どもたちは諦めてはいけません。大人も諦めてはいけません。みえの大人が責任を持って、子どもたちの夢を実現させましょう。」と**閉会の挨拶**がありました。

参加者からは「みえの子どもたちのために、学校・家庭・地域が協力し合うことが大切だと再認識できました。」「教員自身がチャレンジ精神をもつことが必要だと思いました。」「学校内の教職員が一枚岩になることが大切だと痛感しました。」等の声が寄せられました。

今後も学校・家庭・地域が役割を認識し、「**授業力の向上**」、「**生活習慣・読書習慣の確立**」、「**地域とともにある学校づくり**」等、子どもたちの学力向上に向けた具体的・実践的な取組を進めていきましょう。



～ **全ては 子どもたちの 笑顔のために** ～



【事例 12】大紀町立大紀小学校

基礎・基本を身につけ、主体的に考え、学び合う子どもの育成

●● 大紀町立大紀小学校長からのコメント ●●

「基礎・基本を身につけ、主体的に考え、学び合う子どもの育成」を主題に掲げ、授業実践に取り組んでいます。特に過去2年間は、すべての教科・領域の中で「話し合い活動」に重点を置き、本校が目指す「学び合う子ども」の実現に向けて取り組んできました。その結果、基礎・基本の定着が図られるとともに、出された課題に対し積極的に発言したり、友だちの考えを聞いて自分の考えを深めたりすることができるようになってきました。しかし、基礎的な知識・技能を活用したり、自分の考えを論理的に分かりやすく表現したりすることについては、依然、課題が見受けられます。

そこで、本年度からは言語活動の充実を図るために、国語科に重点を置いて授業改善に取り組んでいます。

授業改善のための取組

■ 外部講師を招いての授業研究

- ・ 深い教材解釈 + ポイントを絞った指導案検討
- ・ 事後検討会での指導助言

■ 学力向上アドバイザーによる継続的な指導助言

- ・ 日常の授業を参観後、個別指導
- ・ 全国学力・学習状況調査結果の活用方法等についての指導

■ 授業スタイルの統一

- ・ 単で付けたい力を**明確化** → 付けたい力にふさわしい言語活動の設定
- ・ 主体的に読む子どもを育てる → 並行読書
- ・ 学習形態の工夫 → ペア学習、グループ学習

■ TTを活用した算数科の授業

- ・ きめ細やかな個別支援
- ・ 理解状況を把握

■ 子どもの実態把握と分析

- ・ 全国学力・学習状況調査結果を分析し、

「聞く」力
「話す」力

基礎・基本の
定着!!
「書く」力
強みと**弱み**を全職員で共通理解

研究授業を
通して検証

「書く」場面の設定

ex 字数制限を設けて自分の考えを書く
相手や目的を意識して書く



学校全体での取組

■ 授業以外でも言語活動の充実

- ・ 学校図書館運営補助員を活用した図書館活動の充実（本の紹介、読み聞かせなど）
- ・ 校内読書感想文発表会、全校音読集会、文化祭での音読発表
- ・ チャレンジタイム（始業前の学習）を活用した読書指導

■ 学習規律の確立

- ・ 正しい言葉遣いによる発言の習慣化
- ・ 話す人を見て反応しながら聞く姿勢の指導
- ・ 分かりやすい言葉や聞きやすい音量で話すことの徹底



●● 学力向上アドバイザーから ●●

大紀小学校では、日々の授業を通して、子どもたちが主体的に考え、学び合うことを目指して、ともに検討を重ねてきました。さらに今年度は既習内容を活用した算数クイズに挑戦する機会を毎月もったり、廊下に手作りのタングラムコーナーを設置して、子どもたちがTの字の組み立て方を探り、その結果を校長室に説明に行ったりするなどの取組が加わりました。このような発展的問題や創造力を高める問題に挑戦する環境づくりが、子どもたちの達成感や友だちどうしの関わりの中でいろいろな視点で考える習慣につながり、授業の中でも子どもたちの意欲的な動きとなってきています。今後も、子どもたちが主体的に考え学び合う授業を目指して、アドバイスしていきます。

- タングラム：正方形の板を三角形や四角形など七つの図形に切り分け、さまざまな形を作って楽しむパズル

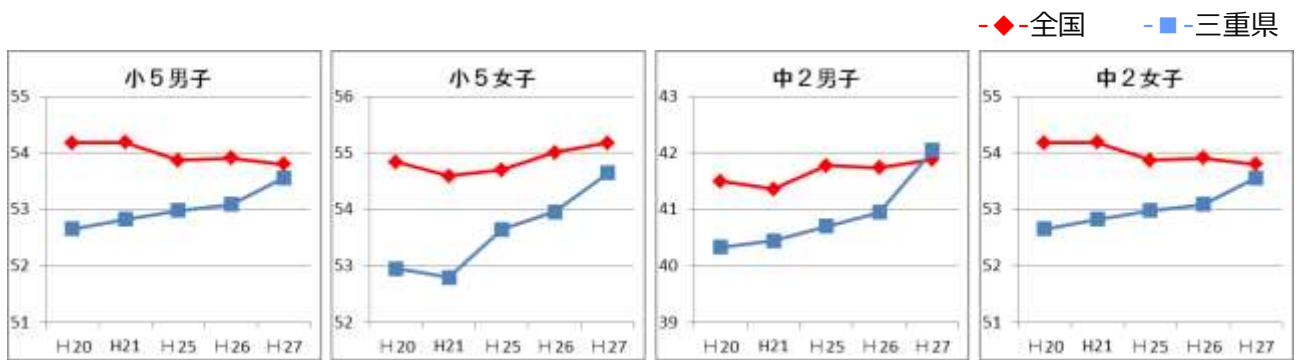
全国 体力・運動能力、運動習慣等調査結果が公表されました！

平成27年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果が、スポーツ庁から公表されました。体力合計点^{※1}において、中学校男子が全国平均を上回ったものの、小学校男女・中学校女子は、全国平均を下回っています。しかし、小学校・中学校の男女とも、調査開始以来最高値を示し、全国平均との差が最も縮まりました。

体力テストの継続実施や「体力認定証・成長記録」の活用、みえ子どもの元気アップシートによる体力向上の目標設定、1学校1運動の推進、校内研修等の充実、校内での体力向上推進体制の確立等…、これまで「みんな」で取り組んできたことで、子どもたちの「可能性」が広がってきました。

※1「体力合計点」とは小学校・中学校とも実施8種目の記録を男女別に点数化（1～10点）し、その合計点を80点満点で数値化したもの

●● 体力合計点の推移 ●●



実技種目 小学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、2.0mシャトルラン、5.0m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ
 実技種目 中学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・2.0mシャトルラン^{※2}、5.0m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
 ※2 中学生は、持久走・2.0mシャトルランのどちらかを選択

●● 全国平均を上回った種目 ●●

小5 男子
 握力 長座体前屈
 反復横とび
 ソフトボール投げ

小5 女子
 握力 長座体前屈
 反復横とび
 ソフトボール投げ

中2 男子
 長座体前屈 反復横とび
 立ち幅とび
 ハンドボール投げ

中2 女子
 反復横とび
 ハンドボール投げ



子どもたちが運動の楽しさや達成感を味わうことができるよう、「みんな」で
みえの子どもの元気アップ!!

「調査結果資料」を活用し、「**体育・保健体育の授業の工夫改善**」「**各校での体育・保健体育の授業以外での体力向上の取組（1学校1運動）の推進**」「**運動習慣・生活習慣の改善に向けた家庭・地域との連携**」等の取組の成果を分析・検証したうえで、今後の改善につなげていきましょう。

平成27年度 ネットDE研修 新規公開講座のご案内

Let's Click!!



- カテゴリー ● 授業方法
- 講座名 ● 授業の達人、7つの原則！
 ～子どもが生き生きする「授業」づくり～
- 講師 ● 関西外国語大学短期大学部 教授 明石 一郎

●● ねらい ●●

「授業」をどのようにつくっていけばいいのか。「授業づくり」と「学級経営」は、子どもたちの豊かな学び、育ちにおいて大切な両輪です。

本講座では、「わかる授業、楽しい授業」のポイントや具体的な授業の進め方について研修します。